令和5年度 校長通信 第2号 5月1日



高石市立清高小学校

編集·発行 末本 裕喜

今年度、4月に実施した全国学力学習状況調査において、子どもたちが自分で自己採点し、 自分の課題に対して向き合いました。

【全国学力・学習状況調査の結果から】

国語では、今年度も<u>文書の中から正確に必要な情報を見つける</u>ことに課題があり、 <u>問題の目的や意図を読み取り自分の考えを書く</u>問題を苦手にしている傾向が見られました。

算数では、<u>図形や面積の理解不足</u>が大きく見られました。また、<u>割合を求める問題</u>に対する正答率も低く、データ活用の問題では、できている子どもとできていない子どもの格差がみられました。同時に、個々の子どもに問題に対する理解度の差があり、基礎・基本の確認が必要な子どもの存在が確認されました。

子どもたちの振り返りより

【国語】

・もっと本を読む。 ・文の読み取りと書くことを頑張りたい。 ・漢字を色々調べようと思った。 ・文章を書くことがめっちゃ間違えたので、文章問題を頑張る。 ・漢字ドリルを使って自主勉強する。・問題文をしっかり読む。 ・もっと勉強する。 ・敬語を知る。 ・自分で復習する。 ・理解してから考える。 ・いろいろな本を読む。 ・もう一度習った漢字を調べてみる。・問題の意味をしっかり考える。 ・毎日30分勉強する。 ・パソコンを使う。 ・できなかった問題を1か月後にもう一度してみる。 ・説明をする練習をする。 ・毎日漢字を10個おぼえる。 ・読み取りがあまりできていなかったので、毎月本を3冊読む。 ・もっと文章を書く。 ・漢字の意味を調べる。 ・天声人語を毎日読む。 ・ニュースや新聞を見る。 ・本を毎日1冊読む。 ・苦手なところを勉強する。

【算数】

・図形問題をたくさんする。・答えの理由をきちんと書けるようにがんばる。・割合の問題を頑張る。・1 週間に 1 回復習する。・できていなかった問題を 1 か月後にする。・あきらめることをあきらめない。・苦手なところを毎日 15 分ぐらい勉強する。・データ活用が出来ていなかったので、教科書を復習する。・毎日 30 分勉強する。・テストが終わったら、必ず見直しをする。・クロムブックで復習する。・校長先生からもらったプリントをする。・5 年の復習をする。・問題をよく読んで集中して問題を解く。・毎日、ひっ算の練習をする。・校長先生からもらったプリントを全部してみる。・計算ミスをなくす。・図形

< 今後の学校の取り組みについて>

ICT を活用しながら、「**質問や意図をふまえて書く力**」を意識した授業づくりを進めます。また、<u>本校が取り組んでいる家庭学習</u>に力を入れた授業づくりを進めたいと考えています。

本校が取り組んでいる家庭学習「なぜなぜホームワーク」の一例

2年国語の授業より 教科書「たこのすみ いかのすみ」図や表にして くらべて読もう。の授業です。

表を作成し、学習した後、ムーブノートを使って「表にまとめるとよいと思う所を書きましょう。」「書けたら広場に入れて先生に送ってね。」という宿題を出した。

担任は、送られてきた子どもたちの意見を事前に集約し、授業展開を考えた。提出された回答の中にあった、表を使うと、「わかりやすい。」「聞きやすい。」「見やすい。」という子どもの意見から「なぜ、そうなるか?」を問い、考えを深めた。逆に「教科書の文章だけ読んで、たこといかの違いを答えた場合、変だと感じる回答があった。」「これはなぜなのか?」を考えた。その結果、「<u>答えが比べる項目でとにはっきりしていなくてばらばらになっていた</u>」ことに子どもたちが自分で気がついた。

(変と感じた例)

「たこ」と「いか」のちがいは? この発問に対する回答

(子どもの回答) ちがいは 「たこはすみをはいたのち、いわなどの狭い隙間に、身をかくす。」と「いかは、すみのねばりけが強い。」という回答

ļ

「すみをはいたのち、いわなどの狭い隙間に、身をかくす。」は、「**たこの逃げ方**」、「ねばりけが強い。」は、いかの「**すみの特質**」であり比較するものが違う。

子ども自身が、**表の活用で**、たこ・イカの特徴がわかりやすく、たことイカを**比較することで違いが分かりやすい**と気づいた。また、表を活用することで、作者の言いたいこと・伝えたいことも分かりやすいと感じた。

【タブレット活用による宿題による効用】

- ・先生があらかじめ子どもたちの回答を予想する必要がなく、余裕をもって授業づくりができる。
- ・学習目標の明確さ(子どもの意見を使ってどう展開するか考えることで、その日の授業の目標に向かって授業を進めることができる。)
- 考える力の蓄積(家庭での子どもの熟考する時間の確保、広場に上がる他の意見がヒントとなり、子ども自身の考えがさらに深まる。)